

2020年度 講義概要（シラバス）

科目名	広島からの平和学：実践の方法
担当者	平和研究所 教授 水本 和実
履修時期	集中講義（後期）
履修対象	1・2年
概要	広島における平和の取り組みは、被爆体験を出発点としつつ、世界の多様な課題にも目を向けてきた。本講義は、広島の平和の取り組みに関する一定の基礎知識を持つ1、2年生を対象とし、広島の経験を生かして平和活動を実践するための具体的な方法論を学ぶことを目的とする。10月～12月の土曜日午後6回行われる広島平和文化センター主催の市民向け平和講座「ヒロシマ・ピースフォーラム」と連携し、被爆体験の継承や平和の実践活動を行っている学外の専門家から学ぶ。最終レポートでは、学んだことを土台に平和についての考えをまとめる。
到達目標	広島で実践されている多様な平和活動について学び、自ら実践する能力を習得する。市民講座「ヒロシマ・ピースフォーラム」で一般市民と共に学び、グループ討議などを通じて自分の考えをまとめ、相手に伝え、建設的な意見交換を行なう能力の習得を目指す。平和の実践経験をもつ専門家を講師に迎え、学外の実践者や多様な市民と交流し、広く平和についてグループで討議を行なう事で、キャンパスでは学べない実践能力を身に着けることを目的とする。
受講要件	(1) 6回の講義全てに出席可能であること。 (2) 「受講の動機」について1200～1500字程度の文章を作成し、メール添付のWord文書で9月30日までに水本宛に提出すること（メールアドレス：kzm-mzmt@hiroshima-cu.ac.jp）。提出文書の形式は自由だが、必ず氏名、学籍番号、学部学科、学年を明記すること。
事前・事後学修	（事前学修）10月初めに学内でガイダンスを行います。開講後は、毎回事前に参考となる文献等を読み、関連ニュースや新聞記事に目を通しておいて下さい。 （事後学修）講義終了後は、期末レポート作成のため関連するテーマの文献を3冊以上読んでもらいます。
講義内容	I. ガイダンス（学内。日時・場所は事前に掲示します） II. 広島平和文化センター主催「ヒロシマ・ピースフォーラム」との連携講義。 会場：広島平和記念資料館、まちづくり市民交流プラザ ほか 日程；10月～12月の土曜日13:30～17:00に計6回。 第1回(10月17日)「袋町国民学校地下室の奇跡ー生存児童3人の戦後」ほか 第2回(10月31日)「被爆体験講話」ほか 第3回(11月7日)「永井隆博士が残したもの」ほか 第4回(11月21日)「被爆体験詩の朗読体験」ほか 第5回(12月5日)「五輪と平和～戦没オリンピック選手の足跡～」ほか 第6回(12月19日)「グループ討議」、感想発表、統括、閉講式 III. 期末レポート作成（以下の二つの課題を出題の予定。講義で指示します） 課題(1)本講義を受講して「平和」について新たに教えられた事、気づいた事、認識を新たにした事等があれば説明して下さい。以前の自分の考え、講義で教えられた内容（講義名、講師等も含む）、そして自分の考えがどう変わったかを具体的に述べて下さい。（1000字程度） 課題(2)本講義で扱われたテーマや内容のうち関心を持ったことがあれば、そのテーマを掘り下げて述べて下さい。参考文献を3点以上用いること。（1000字程度）
評価方法	6回の講義に全て出席し、受講態度が良好でグループ討議にも積極的に参加する、などの平常点（60%）および期末レポート（40%）で評価します。6回の出席および期末レポートの提出は単位取得に必須です。
教科書等	参考書：毎回、講義で必要な資料を配布します。参考文献があれば適宜指示します。

担当者プロフィール	(水本) 原爆・核兵器の問題および広島からの国際平和貢献活動などについて研究・実践しています。著書に『核は廃絶できるか』(単著、法律文化社)、『平和政策』(共著、有斐閣)、『人道危機と国際介入——平和回復の処方箋』(共著、有信堂)、『21世紀の核軍縮——広島からの発信』(共著、法律文化社)など。
備考	会場までの交通費は各自、負担して下さい。今年度はコロナウィルス感染予防のため、履修者数の上限を30人とし、履修希望者が多い場合は、「受講要件」の提出文書等で審査を行います。